

西アフリカ・セネガルのイスラームを 映像制作から捉える



アジア・アフリカ地域研究研究科3年
池邊 智基
セネガル
2016年9月6日～
2016年10月6日

渡航概要と内容

報告者はセネガル共和国内で約30%のムスリムに浸透しているイスラーム神秘主義教団「ムリッド教団 Mouride Brotherhood」の内部運動である「バイファル Baye Fall」を調査してきた（ANSD 2002）。バイファルは一般に知られているムスリム（イスラーム教徒）とは異なり、礼拝や断食をせず、パッチワークのカラフルな衣装を身にまとい、首には大量の数珠やイスラーム指導者の写真をつけている。都市の路上で托鉢（お金集め）をする様子や、集団で円になり大声で歌う儀礼ズィクル（現地語でシカル）がしばしば見られる。こうした点は一見イスラームらしからぬ特徴を持っているように見られるが、セネガルにおいては少なからぬ信徒がバイファルとして宗教生活を送っている。報告者はバイファルを中心に研究してきた中で、個々の宗教実践とバイファルらのライフヒストリーを映像で記録することでより細部まで研究が行えると考え、調査した。

渡航を通じて感じたこと

報告者はこれまでに合計2回の渡航を経験しており、本プログラムを活用して博士予備論文（修士論文）のための補足調査として1ヶ月間の渡航を行なった。今回は映像を用いたインタビュー調査や、宗教実践の映像記録を行った。調査は首都ダカールで行い、バイファルの宗教実践が組織される共同体「ダーラ daara」、都市で行われる托鉢（maajal）、儀礼ズィクル（sakar）の3点を調査した。バイファルは、イスラーム指導者（現地でマラブー、セリンなどと呼ばれる）のために「労働 liggey」をしながら宗教生活を送る。この「労働」は単に賃金労働を指すだけでなく、托鉢や農作業、炊事なども含まれる。今回の渡航時には、10月初旬に行われる年中行事「タムハリ Tamkharit」のための托鉢が盛んに行われ、しばしば開かれる集会（dahira）では行事に必要な金額や品目、数などを共有していた。

また、これまでアプローチできていなかった女性の宗教実践も新たに観察することができた。バイファルの家系に属する女性は「ヤイファル Yaye Fall」と呼ばれる。これまで調査をしてきた都市部や農村では、女性であるヤイファルは、バイファルら男性のように指導者に絶対的に従うことや、指導者のために労働することはしない傾向にあり、先行研究でも言及されている (Pezeril 2008)。セネガルにおけるスーフィズムでは、男性信徒は指導者に付き従って学習し、村内や地域ごとに存在する共同体の中で宗教実践することが望ましいと一般的に語られているが、女性は宗教行為を積極的に行う主体としては見られることは少なかった。バイファルも同様に男性主体の宗教実践である。女性のヤイファルは宗教実践をするというよりは、祭礼のための食事準備といったいわば「裏方仕事」が多く、男性の行う宗教実践を脇で眺めていることが多かった。しかし、ヤイファルのあるグループは、指導者の家のひとつで共同生活をしながら、バイファルと同じように托鉢やズィクルのような宗教実践を積極的に行っていた。女性による積極的な宗教行為への参加という新たな動きがヤイファルに起きているのではないかと考える。

最後に、映像を用いた人類学的調査の手法を学び、同時に映像を用いる際の課題を認識した。カメラを常に持ち歩いて調査をすることで、普段では引き出せない情報を聞き取ることができ、文章でまとめるだけでは見落としかねない情報も記録できた。課題としては、技術的な難しさだけでなく、現地のコミュニティとの人間関係を構築する難しさを認識した。調査対象者との協力関係はこれまでの調査で築けていたものの、人が行き交う都市では、承諾を得ないままに市場で気軽にカメラを向けることはできず、警察に注意を受けることもあった。調査目的であることを伝えると理解を示してもらえたが、こうした環境づくりにも注意を払う必要があることがわかった。

[参考文献]

- ・ ANSD (Agence National de la Statistique et de la Demographie). 2002. *Recensement General de la Population et de l'Habitat*. <<http://anads.ansd.sn/index.php/catalog/9/datafile/F7/V409>> (2016年11月6日閲覧)
- ・ Charlotte Pezeril 2008 "Islam, Mysticisme et Marginalite: les Baaye Faal du Senegal" L'Harmattan



図1：ダカールの路上で托鉢をするバイファル



図2：ヤイファルの宗教実践シカル

今回の経験をどのように今後生かしていくか

まず、研究において多くのヒントが得られたことは間違いない。バイファルという宗教形態はこれまで男性中心だと思って調査していたが、多くの女性も参加しているものだということがわかり、いくつかのインタビューも記録することができた。また、宗教実践として行われるアッラーの名前を唱える儀礼「ズィクル」を通して歌われる内容にも、男性のものと女性のものと違いがあることがわかった。男性の場合はアッラー（神）だけでなく指導者の威厳を歌うことが多いが、女性の場合は、「私の子どもはアッラーが与えしもの」という句を作り歌う特徴を観察し、映像としても記録した。これからは女性の宗教実践も調査を進めていきたい。

今回の経験はこれからの調査に大いに活かしていけるだろう。これからもより多くの事象を映像で記録し、編集したものを記録映像として公開すれば、研究成果を容易に多くの人に見てもらえるだろう。これからはまとめた映像をもとに編集を行い、現地の人々にも共有しながら新たな聞き取りを続けていきたい。今回は初めての映像を活用した調査であったため、方法論の学びも多かった。これからも映像を活用していきながら、より細部まで聞き取り調査と参与観察を続けていきたい。

主な奨学金の使途

- *渡航費
- *滞在費
- *機材・備品購入費
- *調査費 など

